

(別紙)

一般国道 474 号 三遠南信自動車道青崩峠道路 (長野県飯田市南信濃)
環境影響評価方法書についての

知事の意見

[事業計画、地域の概況及び全般]

- 1 この道路建設計画が策定されてきた中で、複数ルート帯案の検討等、環境に配慮するためにどのような検討がなされてきたかの経過を、準備書において明確に記載すること。
- 2 工所用道路付近に保全対象がある場合は、方法書に記載されている調査区域の外であっても、工所用車両の通行による影響について、必要な予測・評価を行うこと。

[大気質]

- 3 地形的に非常に複雑な場所なので、気象観測に当たっては、工事による影響を的確に予測できるよう、地形の影響を受けやすい斜面などが無い地点であることを確認すること。

[騒音、振動、低周波音]

- 4 発破工事における保全対策のため、防音扉の設置位置や他の手法も合わせて効果的な対策を検討できるよう類似事例や最新の知見の情報収集も含め十分に調査すること。
- 5 発破に関する低周波音については、ISO 7196 による評価では、影響を的確に予測できず、保全対策が不十分になる可能性があるため、文献・資料等を収集し手法を検討すること。

[水質、水象]

- 6 工事による水質への影響の有無を確認するため、適切な調査地点を選定し、着工前から水質調査を実施するよう検討すること。
- 7 トンネル掘削等の工事中における排水について、特に、この地域の地質の特異性から重金属による汚染の可能性を確認するため、水質については環境影響評価を実施する項目とすること。
- 8 工事による地下水量・水質等の変化を監視できる湧水や井戸の有無を確認すること。
- 9 大規模な構造帯、破砕帯の近くをトンネル掘削するので、想定される異常出水等の事態を十分予測し対策を検討すること。

[植物、動物、生態系]

- 10 動植物への影響が予想されるトンネル坑口、明かり部、取り付け道路等において踏査ルートを適切に設定すること。
- 11 魚類の調査時期のうち春については、稚魚がある程度大きくなり、また、当年生の個体と越年した個体も確認可能な、できるだけ夏に近い時期とし、再生産の構造がわかるような調査にすること。
- 12 魚類の調査において、春はカジカ、冬はアマゴ、イワナの卵が存在している可能性があるので、掘り起こしたり、踏み潰したりしないよう、十分注意すること。
- 13 この調査区域における注目すべき動物については、天然分布による種を選定し、放流等により分布している種を除くこと。
- 14 トラップ法を用いる調査は、長時間放置することにより個体を死亡させることがあるので、調査方法について検討すること。
- 15 長野県版レッドデータブックで絶滅危惧種として掲載されているシテムシ

科の昆虫が調査地域に生息しているとされるため、ベイトトラップを小嵐川沿いに仕掛けるなど、その設置位置について考慮すること。

16 猛禽類の調査に当たっては、この地域でクマタカの繁殖の成功率が低いことも考慮すること。

17 生態系に係る注目すべき動植物の典型性の指標としてミドリシジミ類、クリ-ミズナラ群落、カスミザクラ-コナラ群落を加えるよう検討すること。

18 生態系の予測・評価において、森林伐採により生じた林縁付近では、特に光量、温度、湿度、土壌水分も変化する可能性があるので考慮すること。

[景観、触れ合い活動の場、史跡・文化財]

19 青崩峠を含む「塩の道」と、それに沿って点在するいくつかの文化財や石仏、石碑、墓碑が相まって、古来よりの景観が保たれているので、人と自然との触れ合い活動の場又は史跡・文化財としてそれらを個々に評価するだけでなく、全体を線又は面による1つの景観として捉え、予測・評価すること。